

緒 言

佐藤 徹

国立病院機構岡山医療センター整形外科

骨折治療における小侵襲手術療法の最小侵襲プレート固定法(MIPO 法)に代表されるように、これまでの治療概念を大きく変えていくものです。大きく展開し、骨折部および骨周辺組織の血行を障害する従来のプレート固定法は合併症も多いことは知られていますが、骨折部の整復操作がうまくいかず、仕方なしに従来法を用いた経験をお持ちの先生も多いことと推察します。今回、田中 正先生には MIPO 法のポイントである観血的整復法についてご説明いただきます。

骨盤骨折に対する従来の手術法は整形外科領域において最も困難な手術であり、術中出血を含めた合併症もしばしば問題となります。従来法からさらに一歩進んだ小侵襲手術は合併症を減少するためにぜひともマスターしたい方法であり、骨盤輪骨折、寛骨臼骨折に対する小侵襲手術法を澤口 毅先生にお願いしました。

術中 CT と Navigation system を用いた手術の可能性について戸田一潔先生に症例を提示してご説明いただき、高田直也先生には整形外科医が最も多く遭遇する大腿骨転子部骨折に対する Navigation system の実際と、今後の課題・展望について執筆いただきました。人工関節や脊椎外科手術と同様に、骨折治療における Navigation system の可能性を塩田直史先生に、また変形癒合に対する、より正確で小侵襲で行える computer assisted operation の紹介を香月憲一先生にお願いしました。

これらの手術法は設備や周辺環境の準備を整える必要があるため、必ずしも明日からすぐには可能な治療法ではないかもしれませんが、しかしながら、いずれの方法も最新治療法を示すものであり、現在の最先端治療はどこにあるのかということを知っていただき、さらなる進歩を目指していただきたく企画しました。